



2012 J.League Division2 第5節 大分トリニータ 戦

3/25 (日) 18:00~

@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

F C 岐阜大好き通信 (岐大通)

3/25号

編集発行: 『岐大通』製作委員会

今号の製作担当:

ささたく & 吉田鑄造

today's guest : 大分トリニータ 2011 J2 12勝 14分 1敗 勝ち点 50 第 12位

2002年ワールドカップの大分開催の契機とするべく、1994年に大分県主導で創設された「大分FC」は県リーグからスタート (wikipediaによると当時の県リーグは1部のみだった)、順調に勝ち上がって、地元・大分開催の地域リーグ決勝大会で2位となりJFLへ (優勝は日本電装 = 現・FC刈谷)。地域リーグ決勝大会にワールドカップでの得点経験者が出場したのはこの時の皇甫官が唯一例と思われる。J2には発足年 (1999年) から加盟し、「大分トリニティ」から「大分トリニータ」へ改名。2003~2009年とJ1。2008年にはナビスコカップを制し、日本リーグ時代も含めて九州勢初の全国タイトル獲得。2010年からJ2。リーグ最高順位は2008年のJ1・4位。(吉田鑄造)

9日間で3試合というハードな日程の3試合目。前節は首位湘南相手に惜しくも敗れたが、選手たちは最後まで試合を諦めずにプレイしていたし、#10樋口がJ初得点を挙げて意地を見せてくれた。守備でも攻撃でも自分たちのサッカーができていた時間が多かった。あと少し、あともう少し、歯車が上手く噛み合えば…そう思っているサポーターも多いことだろう。順位的にも現在19位 (19~21位は勝ち点2) と、そろそろ勝ち点3が欲しいところだ。今日こそ、ホーム長良川で今季の初勝利を歓喜と共に飾りたい。

一方の大分は現在10位。#15永芳卓磨 (09年からFC岐阜に筑波大より加入、昨年途中から大分にレンタル移籍、今季は完全移籍) が在籍するチームだ。まだ今年はほとんど出場機会がないが、この一戦にかける気持ちは強いはずだ。また、この永芳と筑波大時代の同僚 (つまり岐阜の#4田中とも同僚でもある) で、今季新加入した#24木島悠は、全4試合で途中出場ながら2得点を挙げる活躍をしており、そのスピードと決定力には十分な注意が必要だ。また、前節は欠場していたが、“デカモリシ”こと#20森島康仁も既に2得点を挙げており、健在だ。

草津戦、湘南戦と同じスタメンで臨んだFC岐阜だが、勝利のためには守備でも攻撃でも更なるテコ入れが必要だ。今節はスタメンを変更してくるのか、それともハード日程でもスタメンを固定するのか。元チームメイト・永芳選手との対戦に燃える、田中秀人ほか昨年からメンバーの奮起にも期待がふくらむ。行徳監督の采配や選手起用に注目だ。(ささたく)

Looking back 2011

第1節 3/5 @長良川
0-1

第3節 11/20 @大分・大銀ドーム
1-2 得点者: 地主園

開幕戦。相手が退場で10人になっても采配で動くことなく、中を固めて逃げ切りを図る相手にただひたすら放り込むサッカーに、このシーズンの苦戦の香りが既に漂っていた。

地主園のJ初ゴールで先制するも、後半に逆転を許す。この敗戦で、2011シーズンの最下位が確定。
(吉田鑄造)

◇他サポさんの見た『F C 岐阜』。(@湘南戦)

●私が岐阜の試合を見たのは3年ぶりくらい。その間に選手もたくさん入れ替わって、以前とはすっかり別のチームになってしまった気がします。MF服部選手やGK多田選手はJ1経験もあり、普段はJ1しか見ていない私でも名前を知る選手。特に服部選手は試合を組み立てるボランチと言うことで、注目をしていました。往年のスピードもパワーも影を潜めていましたが、ボールホルダーへの身体の寄せ方、ボールを奪って的確に味方へパスを出す、そういう一連の動きは流石、まだまだ衰えてはいません。どう相手からボールを奪って、どこへパスを出すか、服部選手のプレーに是非注目してみてください。湘南戦では最終ラインの混乱から先制点を奪われるなど、まだまだ連携のとれていないところが散見されましたが、完封されると思われた後半のロスタイムに見事な崩しで1点を返しました。これが示すように、サッカーの試合は試合終了の笛が鳴るまで何が起こるかわかりません。90分+α、熱く応援してください。何かが起こるかも知れません。(よた。@川崎サポ)

2011 J2 順位表 ■ 第4節

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績 (岐阜から見て)

1 湘南	12p	+6	10	4	A●
2 水戸	9p	+4	6	2	
3 甲府	9p	+3	8	5	
4 山形	9p	+1	7	6	
5 愛媛	7p	+4	6	2	
6 東京V	7p	+3	7	4	
7 千葉	7p	+3	5	2	
徳島	7p	+3	5	2	A●
9 福岡	7p	0	4	4	
10 大分	6p	+2	8	6	
11 京都	6p	+2	6	4	
12 町田	6p	+1	4	3	
13 草津	5p	-1	4	5	H△
14 北九州	4p	-1	2	3	
15 鳥取	4p	-3	5	8	H△
16 栃木	4p	-3	2	5	
17 熊本	3p	-3	3	6	
18 松本	3p	-5	2	7	
19 岐阜	2p	-4	3	7	= =
20 富山	2p	-4	2	6	
21 横浜FC	2p	-4	1	5	
岡山	2p	-4	1	5	



本庄工業株式会社

<http://www.honjo-woodream.com/>

ALADDIN

何も無い店だけど・・・
心の花が咲く・・・
何も無い店だけど・・・
心癒される・・・
忘れかけていた喫茶店がある

岐阜市昭和町3丁目 (木ノ本公園東)

「いらっしやいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。

休: 日曜日 (今日はお休みです)



投稿募集!

gdaidohr@hotmail.co.jp

次回 HomeGame

第7節 京都サンガ戦

4/8 (日) 16:00

@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

【第3節】岐阜0-0草津

●とにかく、あのピッチではどうしようもなかったです。0-0って結果も仕方ないと思います。決定機はお互いあったのですけどね。

あれに近いピッチ状態だと去年のアウェイ徳島戦がありましたがあの試合はグラウンダーのパスは通らないとさんざん失敗したにも関わらずそれに固執して大惨敗。けどこの試合は浮き球やフィードもそれなりに使えていたと感じました。この辺りを見ても去年よりは進歩は感じるのですが、この試合で樋口と東権がデビューしましたが評価も何もあったもんじゃないです。ただこの試合に限って言えば及第点だったかと。どちらも若いのでガムシャラに色々吸収して欲しいもんです。（ジュニア）

●スタメンを見て、正直驚いた。確かに前節の徳島戦で敗戦した後の会見で、行徳監督は「守備の構築をやり直す」って言ってたけど…ホントに守備陣をガラリと変えてくるとは（笑）。いや、こうやって色々選手の起用を試すことは、僕は嫌じゃない。というか、選手間の競争やチームの活性化にも繋がると思うので、むしろ好印象を持つぐらいだ。リーグは選手全員で戦わなければ、良い成績を残せない。今後も思い切った選手起用を期待したい。さて試合だが…まあ…このピッチ状態ではねえ…（溜息）。確かに大雨だったが、それでも“豪雨”って程じゃなかった。それなのに、しかも、今年の国体のためにスタジアムを改修したはずなのに、まるで池みたいなのピッチ。でも、去年はここまで酷くならなかったような気が…なにか原因があるのだろうか？というか、これで（もし大雨が降ったら）ぎふ清流国体の時は大丈夫なのかな？と心配になってしまう。

ピッチ状態はさておき、前節と比べれば、確実にチームは機能していた。もっとも、「サッカー」というよりは「蹴り合い&走り合い」だったけれども（苦笑）。守備で言えば、CBに入った#16キム・ドンゴンとは全然競り負けでなかったし、左SBの#30尾泉は、キックの精度が高かった。そしてなにより、GK#22多田の安定感。そんなに派手ではないんだけど、堅実に守るタイプ…なのかな？多くの時間帯は、DF陣の踏ん張りもあって安心して見ていられた。

一方の攻撃陣は、あと少し…（苦笑）。後半14分、右サイドで止まったボールを#29廣田が巧く中に入れると、新加入の#10樋口がドンピシャでヘッド。ボールはゴールに向かっていき…（ここで僕も含め、周りの多くのサポはガッツポーズしかけていたw）…ポストを叩く（周りで悲鳴を上げて頭を抱えたり、崩れ落ちるサポ多数w）。後半29分には、敵GKがクロス処理を誤ったボールが#14井上平に渡り、シュート…したが枠を外れた（この場面でも、周りのサポは崩れ落ちていたw）。もちろん、攻め込まれてピンチの場面もあったが、総じて押していたのは岐阜だったように思う。勝ちたかったが、このピッチ状態では引き分けもやむなし、と言ったところだろうか。（ささたく）

●思い切ってスタメンに手をつけた行徳監督。昨年からのメンバーはDF野垣内とFW洗一のみ、その野垣内もこれまでのCBや左SBではなく右SB。さて、どうなるか。…という期待と不安はピッチコンディションですべて洗い流されてしまった（苦笑）。あれじゃあ、パスを使って崩したりドリブルで突破を図ったりなど出来やしない。ひたすらドカンドカンと蹴りあうのみ。となると、前線が強力だったのは草津の方、なのだけど、多田がしっかりと安定した守りを見せてくれた。

攻撃面で光ったのは左SBに入った尾泉のキックの精度。早くて低めの弾道で入ってくる。これで最前線に高さのある選手がいたら…。で、思ったのは、試合が最終盤に入ったあたりで最前線に関田を入れて、いわゆる『大作戦』もアリだったのではないかな～、と思う。どうせパスもドリブルも封印されているのだし、交代枠もまだ残っていたのだから。貪欲に勝利を求める姿勢が見たかった…と、ちょっとだけ思った。（吉田鑄造）

●時折激しくそして降り続く雨、ピッチはまるで田んぼのよう…。こんなピッチを見てると、香川真司の華麗なプレーを封じ込めて勝ったいつぞやのC大阪戦の事を思い出す（笑）。それにしても、国体に向けて改修された筈なのに、このピッチの水捌けの悪さはいかがなものだろうか？推測するに、芝は張り替えたものの芝の下の土の入れ替えには手が付けられていないのではなからうか？そんな中での試合ただただに、両チーム共に蹴り合いのサッカーに終始してしまった。スコアレスドローという結果も致し方ないところだろう。

そんな中でも、新戦力選手たちのプレーは目を引いた。多田は落ち着いたプレーぶりでキックも安定していた。ドンゴンには相手が放り込んでくるボールを力強く跳ね返していた。ジョンヒョンはボールを引き出す動きが光っていた。そして樋口。合流したばかりでいきなり先発とは驚いたが、惜しいヘディングシュートを放つなどゴールへの嗅覚を感じさせるプレーもあり、今後に期待を抱かせてくれた。

さて今日は大分戦。派手さはないが、田坂監督の戦術がチームに浸透している様子が窺える。しかしここはホーム、前2戦は生憎の雨だったが今日はスカッと勝利して今期初勝利を見たい。（岐阜の誇り）

●雨中の水たまり決戦はスコアレスドロー。ボールの行き先はボールに聞いてくれという、サッカーをやるには不適合なコンディションでは妥当な結果だったように思う。試合後に濡れたダンマクを片づけながら、なぜか2009年の鳥栖戦が思い出していた。あの試合、この日と同じようなピッチコンディションであるにもかかわらず、いつもどおりのサッカーを試みた岐阜に対し、ロングボールを多用し空中戦に徹した鳥栖。0-2で敗れたワケだが、戦況に応じて臨機応変に対応した鳥栖に比べ岐阜の選手、スタッフの勝負に対する甘さ、未熟さを苦くかみしめていたことを覚えている。同じ年には同じようなコンディションで香川のいたC大阪に勝利したけれども、あの試合は逆にC大阪がいつもどおりの試合をやろうとしてハマってしまったという認識がある。いずれにせよ、ボクの主観、独断なので異論はあると思うがご容赦いただきたい。

そして、この試合のウチの選手だ。大幅なスタメン変更を行ってコンビを合わせるのも大変だったと思うが、状況に合わせたシンプルな戦い方をしていたと思う。それは服部のような百戦錬磨の選手がいたからなのかもしれないが、状況に合わせてよりよい戦法の選択ができると選手が増えた、あるいは経験を重ねて成長したのかもかもしれないと思うと少しウレシくなった（笑）。クロスバーに阻まれた廣田→樋口のセンス溢れるシュートや「決めてくれ～！」な平のシュートが決まっていたら…と思うが、同様な決定機は草津にもあった。

前節のジョンヒョンに続いて、いきなりスタメン出場のドンゴンや久しぶりに右SBで出場した野垣内の最終ラインも無難な、とりあえず無難な結果を出せた。ロングボールが多用された試合だったから、彼らの空中戦での強さが発揮されたのだと思う。ただ、この組み合わせがいいのかどうかは普通のピッチコンディションでの試合を見てからでないとわからない。特にドンゴンは、草津戦では裏を狙うボールが用をなさなかったためスタンディングで対応できたが、背後を狙われた場合に対応できるか、スピードはどうか、というあたりを確認したい。

いずれにしても、そろそろこのピッチコンディションは何とかしてほしいという思いが募る。Jリーグ以外のサッカーやラグビーも行われる会場なので早急に改善してほしい。走ることだけでも体力を消耗するピッチ。ふだんなら、ボールの回転などを見て転がり方や距離を予測してプレーする選手たちにとって、想像がつかない動きをするボールが相手ではきっと神経もかなり消耗したことだろう。最後まで戦い抜いた両チームの選手たちに心から拍手を贈りたい。そのうえ、中二日で試合があるのだから体調を整えるのも困難だろうが、次の試合もアグレッシブなプレーを期待したい。（ぐん、）

【第4節】湘南2-岐阜

●昨年1-7と大惨敗を喫した湘南戦ですがやはり苦手意識ではないけど相性の悪さみたいなのはあったかなあと。球際の競りを悉く負けて両サイドをあそこまで制圧されてはどうにもならなかったかと。それでも多田はよく踏ん張ってくれたのですが。

開幕2戦の明弘×関田。草津戦とこの試合の野垣内×尾泉って組合せからして行徳さんは片側には攻撃的なSBを置きたい。反対側は守備に専念させたいって考えが透けて見えます。本当は両SBが駆け上がって数的有利を作りたいとこだらうけどCB2枚がスピード面に不安あるし現実的なチョイスかと思います。そのせいだけではないんですが、局面での数的不利を感じるシーンは散見されました。セカンドボールを拾えなかったですね。攻撃面の厚みも全然。厚みがないからすぐにロストして守備に周り疲労を重ねるって悪循環。前後の距離の修正は必要です。

樋口が初ゴール。合流2試合でゴール決めたことで少し落ち着いてくれるといいですが。あのゴール前の位置取りは非凡です。ラストパス、クロスの精度が高まればもっと量産出来るはず。1つ1つを大切にプレーしてください。(ジュニア)

●今季初めて晴天に恵まれ、ピッチコンディションも良好な中で行われた試合。スタメンを大幅に入れ替えた前節から、てっきりターンオーバーでさらにスタメンを替えてくると思っていたらまったく微動だにしないスタメンだったことにビックリ。サブのメンバーも山崎と梅田を入れ替えたのみという采配に驚いたが、一番ビックリだったのは服部がこの試合もフル出場だったこと。中盤をこなすだけでなく、両サイドを埋めたり、時にはペナルティエリアへ侵入しクロスキーパーと競り合うシーンも見せてくれて、やっぱり違うな……と。

1-2で敗れ、今季まだ未勝利という結果は残念だけれども、見どころはいくつもあったし、満足はできないけれども納得はできる内容という印象。実際のところは、キックオフからほとんどボールを支配され、ことに両サイドはまさに「蹂躪」という単語がぴったりハマるような感じで攻められて、よく一点ですんだよな、という感じで、正直今季2試合目の大介の堅守に救われたと思う。あの先制点も体を投げ出して防いだシュートが相手選手の前に転がった全くノーチャンスな場面だったからしかたがない。それでも、先制して落ち着いたのか、疲れたのか？それとも気が抜けたのか。湘南のテンションが下がるとともにウチにもチャンスの兆しが見られるようになった。ただ、相変わらず連携やらフィニッシュやらの精度がまだまだお互いの長所というか好みのボール、タイミングが把握できていない。そんな状況が続いた中で訪れた後半の樋口の一対一。まだ、0-1の状況だっただけにアレが決まっていたら、試合も、そして今後の樋口も波に乗れたのでは？と思わないでもない。実に惜しい場面だった。草津戦に続いてのビッグチャンスを逃したわけだが、それでも、アディショナルタイムに訪れた決定機を見事に決めて、ついにJ初ゴールをゲット！次節の大分戦での長良川初ゴールに、否が応でも期待が高まってきた。

この日の相手は開幕3連勝と波に乗る首位の湘南だったが、それでもいくつか見どころは作れたし、イケる！と思える流れもあった。確かに、組織としての完成度や個人能力に差が出た場面も多々あったけれど、このリーグではどの相手でも90分間やらねばなしになるようなことはないと思う。昨年のFC東京、一昨年の柏のようなチームは今季のJ2にはいない。選手には臆することなく戦い抜いてほしいし、観戦し応援する我々も最後まで選手を鼓舞する雰囲気を作らなくてはならない。選手からは感動と興奮をもらい、選手には勇気と元気を与えられるような状況にしようではありませんか！（ぐん、）

●昨季のアウェイ戦では、1-7となす術もなく惨敗した湘南戦。しかも湘南にはJ昇格時から未勝利。今年こそは…と乗り込んだのだが…。

前節の草津戦とスタメンは変わらなかったが、やはり好調の湘南にはやられる場面が多かった。前半13分には右サイドを切り裂かれ、シュートをGK多田が弾いたボールを押し込まれて先制点を許してしまう。しかし、ここで昨年ならガクッと来て、立て続けに失点…なんてシーンを見させられた（苦笑）ものだが、今年は違った。逆にここから立て直し、相手ボールを奪って攻めるシーンが多く見られた。ただ、あと少しパスやシュートの精度が良くないの、思い切って前を狙ったりシュートを撃てばいいの、と思える場面で、横や後ろへのパスを選択してしまうシーンが何度かあったように思う。

前半には流れはウチにあったのに決めきれず、後半になると相手チームに修正されて酷いことに…というパターンも昨年は見飽きた（苦笑）のだが、今節に限って言えば、後半も悪くはなかった。しかし、後半30分にセットプレーから失点。けれども選手は最後まで諦めず戦い続けていた。後半ロスタイムには、CB#3池田が右サイドを駆け上がり、そのクロスをFW#10樋口が押し込んでゴール！

（あの時は時間が迫っていたのでお祝いできなかったが、樋口選手、J初ゴールおめでとう！）流れから得点を決めて意地を見せたが、そのまま試合終了。首位・湘南相手に、惜しい・悔しい敗戦となってしまった。悔しかったけれども、選手もサポも、今後に向けて手応えを感じるこのできた試合だったと思う。

また、これまで（雨の試合ばかりだったので）それほど気にならなかったが、今季から「フットボールコンタクト」、つまり「サッカーをプレーする上で、当然の接触プレイ」に対するファールをとらない審判基準が強化されていることを実感した。そして、ウチの選手がコロコロと倒されている（そしてファールはとられない）ことも（苦笑）。

「フットボールコンタクト」が許容されており、かつ、手を使ったホールディングは厳しい今季の審判基準で、選手もサポも若干戸惑っていたように思う。選手はもっとフィジカルを鍛えて簡単に転ばないようにして欲しいし、サポーターも落ち着いて判断する（というか、サポも笛が吹かれるまでセルフジャッジしない（笑））ことが必要かもしれない。（ささたく）

●今の岐阜は昨年と何も変わっていません。本当に悔しいです。とても悲しいです。プロである以上、結果が全てです。惜しかったとか、いい試合内容だったとか、もうそれでは駄目なんです。

私は勝ち切れない原因が、決定力不足や守備陣の連係などの技術的なものだとは思っていません。選手の勝利に対する執念不足や危機感の低さにあると思います。必ず今日の試合では勝利という結果を出して下さい。岐阜の浮上を信じています。（アオキ）

FC岐阜サポによる ゲリラ的Ustream配信番組

今シーズンからのサポーター発信企画として、基本的にホーム戦の前日に、インターネットの動画共有サービス「ユーストリーム」を利用した手作り感満載の番組を下記アドレスで放送しています。サポーターの『生の声』をお愉しみください。

<http://www.ustream.tv/channel/sstak12-fcgifu>

次回放送は4/7（土）21:00開始の予定です。

